

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営推進会議や防災避難訓練を行う際に区長、民生委員、消防団の方に、ホームまで来て頂き、馴染みの関係が作れるように努めています。また、地区の班にも加入し、地域の方と触れ合えるよう取り組んでいます。</p>	○	<p>民生委員さんを通じて、地区の高齢者クラブの方との交流を図っています。グループホームの夕涼み会や餅つきにも参加して頂いています。今後も交流を重ねて行きたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員の目指す目標は、利用者の方が自分らしい生活が出来る事と考えて、その方に添った介護が提供出来るように、日々のミーティングや申し送りノートで確認し合い、実施に向けて取り組んでいます。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や夕涼み会等の交流を通じて、利用者は地域の中の一員であるという事を確認し合っております。</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地区の自治会にも入会し、回覧板などの持ち回りで、地区の方とも顔見知りになって来ました。地区の祭り時は、ホームまで舞踊隊が来てくれたりと除々にふれあいが出来ています。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会入会は、もちろんのこと、地区の行事の参加や支援などもおこなっています。グループホームでの行事等へも招待し参加して頂いております。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当、グループホームは高台に位置している為、災害時の避難場所として、地域の方の受け入れ体制が出来ております。非常食も用意して、地域の方への貢献に努めるよう取り組んでいます。	○	受け入れ体制があることを周知徹底させる為にも区長さんや民生委員さんを通じて、地域の方へ浸透させて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をし外部評価を受ける事により、日々の仕事を顧みることが出来るので、初心にかえる良い機会になっています。サービスの質の向上に向けて、職員の志気が高まるように働きかけています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政の方、区長さん、民生委員さん、御家族の方などいろんな方が出席して下さり、活発な意見な要望が出され、職員も一つ一つの問題に取り組み、解決出来る事は早急に対応してサービス向上に取り組んでいます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題点や疑問点などが発生した時は、情報提供をお願いして、職員のスキルアップ及びサービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等は、積極的に参加して学ぶ機会は設けてあります。現在の所該当する利用者はおりません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は暴力だけでなく、言葉の虐待もあるので特に言葉遣いには、十分注意し防止しています。又、研修会等があれば、職員の参加をすすめ虐待防止に取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に際して、重要事項説明書並びに契約書や個人情報の取扱い等については、面接時に説明し、御家族の方も理解し納得して頂いております。</p>	<p>○</p> <p>契約途中でも変更が生じた場合は、直ちに文章にて連絡し理解して頂けるよう働きかけていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が不満や苦情を表せるような雰囲気作りに心掛けています。又、訴えがあった場合は、職員間で話し合い、希望に添えるように努めています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の方の暮らしぶりや健康状態は毎月の請求書に、コメントを書いてお知らせしております。又、職員の人事異動や定期的な案内は、その都度文書にてお知らせしております。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者機関を設けており、その事御家族へはお知らせしております。又、グループホームの管理者も窓口として受けております。申し立てがあれば職員間で協議し、改善に向けて反映させています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミーティング、月一回の勉強会で意見交換が出来るようにしています。それぞれの意見等は皆で十分に話し合い運営に反映させています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>グループホームの行事等で、職員の数が必要な時は、通常より人員を確保し容態悪化などがあれば、すぐに対応できるように、調整しています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は、理事長の判断によりますが、異動があった場合は、利用者との馴染みの関係構築に努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的に資格を取りに行けるようにしています。研修は交替で参加し、スキルアップに努めています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北グループホーム連絡協議会をはじめ、市内のグループホーム管理者会等に参加、交流を深め当グループホーム内の質の向上に努めています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みを打ち明けてもらったり、何でも意見が言える場を心掛けています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者の方への関わりを見ながら、皆が同じ気持ちで働けるように努めています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接時に、利用者の方との会話を設けて何でも話して頂ける様な雰囲気作りに努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接時にゆっくりと話せる場を設け、家族の希望等をよく聞くようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族の希望を取り入れながら、まず、グループホームに早く慣れてもらえる様な計画を作成しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、グループホームの生活に慣れてもらい、職員や他の利用者の方と馴染みの関係が出来るよう雰囲気作りに努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で、出来ることは一緒にしてもらい出来ないところを援助させて頂くと言ったように同等の立場で生活して頂いています。又、日々の生活の中で常に、利用者の方との会話の中に入り、信頼関係を築くよう心掛けています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月、初めに様子を文書にして御家族に郵送しています。又、面会時にも現状を報告し必要があれば電話等で相談し、一緒に支援しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生日会等などは、御家族を招待して、一緒にお祝いして頂けるよう努めています。又、面会時でも、御家族との触れ合いが出来るよう雰囲気作りに努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会等は常時受け入れていきます。買い物先での知人との出会い、又、見慣れた景色など楽しんでもらえる様に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者のそれぞれのパターンを把握しその方に合った支援を行い孤立しないように最善の注意を払っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した場合でも、「何かあったら、いつでも相談してください」と伝え、アフターケアには万全を期しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の出来事を把握して、強制的にならないよう本人の意向に添った介護を行っています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、知人、友人等の面会等を通じて生活歴を知り、毎日の生活の中に取り入れています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りノート及びカンファレンスを活用し、職員間で話し合い個々の状況を把握できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスで個々の状況を話し合い、又、家族の意向も取り入れながら介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回のカンファレンスで利用者の状況に応じて見直しています。急激な変化を生じた場合、主治医、家族とも相談し、区分変更を行い、新たな介護計画を作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の記録の中で内容は、その場面が見える記録でなければならないが、簡潔になる傾向があるので、もう少し利用者の観察に力を入れています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診並びに移送サービスや他科受診サービスなど行っています。ショートステイや医療連携体制加算サービスを提供出来るようになり、利用者のより安心、安全の生活を支援します。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	家族、地域、学校、民生委員さんなどへの行事の案内を出し積極的に参加を促し、学校など見学や研修の受け入れを行っています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所、他のサービスは利用していません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	難しい事例の問題などがあった場合、連絡を取り問題解決に取り組んでいます。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期受診を行っています。又、突発的な場合でもDrとは、常に連絡が取れるようにしています。今後も利用者及び家族の方が安心出来るような受診体制を続けていきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドや誇りを傷つけないよう言葉掛けや対応に気をつけています。又、記録等、個人情報に関する書類は施設より持ち出さないようにしています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者一人一人に声を掛けを行いながら分かりやすく説明し、自己決定が出来るように支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々の体制を把握し無理のない程度に本人の希望に添った介護を支援しています。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の身支度、利用者の希望に沿ってお洒落の支援を自分からの訴えのない人は、その方らしいお洒落が出来るようにしています。散髪は御家族の希望により職員でしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に食事作りを行っています。食事に時間のかかる利用者もいますが、本人のペースに合わせて介助したりしています。食事の楽しみを味わってもらえるように配膳なども工夫しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望でタバコを吸われる方がいるので、その方の状況に合わせて対応しています。嗜好の希望を言われる方が居ないので、検食日誌などを活用し、おやつが重複しないように注意して支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自分でトイレに行ける人には、時間や排泄等のチェックを行い、支援が必要な方には、紙パンツやオムツを使用し定期的にトイレ誘導やパット交換を行い気持ちよく排泄出来るように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行いその日の体調(バイタルチェック)や本人の希望に添って入浴して頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、リハビリ体操やボール遊びや指の体操等を行い、体を動かしてもらう様心掛けています。希望のある方は、入眠剤をDrから処方してもらい、ゆっくり休んで頂いています。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の出来ることを把握し、押し付けにならない様に声掛けしながら行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段買い物でお金を使う事は少ないが、ドライブや納涼祭等に出掛ける時に、お小遣いを持って行き、品物を自分で選び買ってもらっています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブに出掛けたり他の施設への慰問見学、花見や地域の祭りなどにも積極的に参加するように努めています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者からの希望は、余り聞かれませんが、季節によっては、花見に行ったり、ドライブをしたりして出かけられる機会を作って支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時、又は本人の希望時は、家族に電話したり本人の納得が行くようにしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気楽に訪問してもらう様に職員も一緒に会話したり、お茶などの準備をし和やかな環境作りに努めています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全面的に身体拘束は禁止しており、見守り重視のケアを行っています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、居室、玄関共に施錠はしておらず、自由に生活して頂いています。ただ、離設する利用者には、センサーで対応しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ホール内での生活が多い為、利用者の所在や様子が分かりやすく、安全面に配慮しています。又、夜間は2時間毎に見廻りを行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤やハイターなど誤嚥するような物は、倉庫や棚に入れ保管しています。手洗い場や浴室に利用者が近付かれた時には、見守りを行っています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月一回勉強会を行い利用者一人一人のカンファレンスを行い、現状の状態に応じて話し合っています。事故が起きた時には、事故報告書を提出してもらい、原因究明や再発防止を話し合っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループホームの年間行事の中に救命救急法を取り入れ職員及び専門の方を呼んでAEDを操作したり、吸引器の使用方法や人工呼吸法を学んでいます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署及び地区消防団に協力を得て防災訓練を実施しており、近隣施設や住民の方に協力が得られるよう働きかけています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時、又、毎月送っている請求書のコメント欄などで利用者の方の現状を説明しています。家族からの質問、要望等があれば医師に相談し対応策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝起床時のバイタルチェック、食事量のチェック、排泄チェック実施と様子観察に努め、異常に気付いた際には速やかに医師に報告して対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の効用等を把握し、医師の指示の元で安全な服用に努めています。服用時にも必ず、服用したことを確認し症状の変化にも細心の注意をしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表にて、各利用者の方の便の状態や量、便秘など把握し水分補給や適度な運動、緩下剤等でコントロールしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア義歯洗浄、うがいの声掛けの実施、及び夜間帯は、義歯洗浄剤にて消毒しています。自力で出来る方には、誘導や準備の支援をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な料理を心掛け、その利用者の状態に合わせ、普通食、小刻み食、ミキサー食に分類し、栄養バランスや彩り、水分摂取量には、十分注意しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ流行防止の為、外出後は手洗い、うがいを徹底しています。ノロウイルスなど感染を防ぐ為、手すりの消毒、トイレ誘導、バット交換、口腔ケアの扱い時には、手袋を着用し、細めな手洗いを心掛けています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理で使用した器具は、洗剤で丁寧に洗い流し、夕方にかけて殺菌の為、ハイターにつけるようにしています。夏場になると、食材が腐りやすいので、特に生物は十分に加熱し、調理当番の人は食材の日付確認を注意して目を通しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	どなたでも、安心して出入り出来るよう玄関周りに多種類の花をプランターに植え、玄関周囲を明るくしています。又、グループホーム内の内容、形式を御家族にも分かりやすく理解して頂く為にも、玄関前にパンフレットを設置しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気をつくる為にも季節ごとの模様替え、利用者の方と飾り物を一緒に作ったり、行事ごとの写真をホール内に飾ったりし、いつまでも過ごしやすい生活を送れるように心掛けています。又、日差しが強い場合は施設の窓側によらずを設置し、利用者が居心地良く過ごせる様工夫をしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、レクリエーション活動など一人一人の利用者の間でも交流を深め、親しみやすい関係が構築出来るようホーム内の中央に広いホールを設置しています。TV前にソファを設置しくつろぎやすい空間にしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、利用者が使用されていた思い出の深いアルバム、家具など、御家族様と相談した上で持ってきてもらい、入居者様の希望に添った住みやすい居室作りを心掛けています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は、天気に応じ窓を開け、換気に気を配りホーム内に風を通し、温度の調整を図っております。又、夏、冬は気温の差が激しいので、冷暖房をかけ、住みやすい環境をつくるように考慮しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し、より安全に身体機能を生かしながら自立した生活が送れるようにしております。転倒防止の為、非常口にはスロープを設置、居室内の段差をなくし、利用者の負担をかけないようにしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、入浴場、居室が分かりやすくする為にも手作りの張り紙、表札を作り混乱や失敗を防ぐ工夫をしています。利用者の状態、ペースに合わせた声掛けを心掛けています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は、日光浴を兼ねて玄関前、非常口のポーチを利用し、リハビリ体操、レクリエーション活動にはげみ利用者のリフレッシュに役立てています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方や家族のニーズに対応出来る様、残存能力に合った介護に努めています。体調や気分に合わせて、起床、食事、入浴なども考慮し時間に追われるような事のないよう自由に生活して頂けるように援助しております。又、体調管理の面でも、母体が病院である為、容態急変時でも、すぐに医師との連携がとれ、特に夜勤帯の緊急時には、医師の指示にて看護師が対応してくれるので、安心して生活して頂いております。ホームの園庭も広く、自由に散歩を楽しんでもらったり、家庭菜園なども利用者の方や時には、家族の協力も得て、野菜作りに励んでおります。日々の日課として、レクリエーションやリハビリ体操を取り入れ、日常生活に張りを持てるように支援しています。